

令和元年度 屋久島世界自然遺産・国立公園における山岳部利用のあり方検討会
第2回作業部会 議事録

日時：令和元年11月30日（日）19:30～21:

場所：屋久島総合センター（安房支所） 大会議室

■ 開会の挨拶

事務局 日本森林技術協会(高橋)：土曜の夜にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

9月8日（日）に行いました、第1回作業部会に引き続き、今日は第2回作業部会を始めさせていただきます。前回同様に進行をさせていただき、日本森林技術協会 高橋です。今日も90分間、よろしくお願ひします。

今回は、お忙しいなか、10名の方にご出席いただきました。前回と同じく、「あり方検討会」の委員3名がオブザーバーとして参加します。また、明日9時30分から役場本庁で「屋久島の山岳トイレはどうあるべきか」といった内容で講演を予定しており、そこで講演していただく「日本トイレ研究所 理事 上幸雄さん」にもオブザーバーとして、参加いただいております。上さんから、一言ご挨拶をお願いします。

上 オブザーバー：上と申します。中学1年で初めての登山が丹沢で、山っていいなあと思ったのが始まりで、現在も山登りをしています。トイレに係わったのは、環境問題の雑誌の編集をしたりシンクタンクにいましたが、日本トイレ協会を1985年に設立しました。当時の公衆便所は汚い、暗い、臭い、怖いトイレであったのを、なんとか改善しようとして、任意団体で活動してきました。毎年、国内の良いトイレを10ヶ所選んで表彰してきて、全部で120～130ヶ所選んで役割は終わったと思っていました。それ以降は、シンポジウムや調査をして山のトイレ問題に携わってきて、現在は日本トイレ研究所で昨年まで理事長をしておりましたが、現在は理事として活動を続けています。

屋久島との関わりは、第5回世界遺産登録記念シンポジウムというのを、私の組織が受けて、立松和乎さんに基調講演をしてもらいました。いろんな提案をしましたが、その後どう実現したのかはフォローできていないので、把握できていません。それから、大株歩道入口トイレを私の組織が鹿児島県からの委託を受けて造りました。その時に軌道を延長して、し尿を里まで下ろせるようにと電気を引くとかを含めてやってきたことが、屋久島との関わりです。

■ 第1回作業部会での主な検討内容と結果

◇ 資料1

【資料説明】

事務局 日本森林技術協会(高橋)：第1回作業部会を9月8日におこなってから、だいぶ間があきましたので、前回作業部会の振り返りからしたいと思います。

まず、1ページ目にあるように、作業部会では、利用者が自らの判断でルート選択、登山計画や準備ができるよう、「情報提供」について策定することを目標として開催しています。そこで、第1回の作業部会では、「情報提供」として、これから登山を計画しようとする人を主な対象にして、電子倍体を

通して具体的な①登山情報の内容を提供するには、どんな情報を盛り込むべきか、2ページにある、アウトプットをたたき台にして、紙に書いて張り出す形式で、意見を出していただきました。

3ページには、ワークショップでの意見の概要をまとめています。特に、対立する意見や、大きく外れた意見は無かったので、ここに取りまとめた意見を元に、ポータルサイト（ホームページ等）の簡単なイメージを作成しています（図3-2～3-4）。最終的（今年度中）には簡単な情報発信サイト（トップページ）のイメージ程度は作成したいと考えています。

5P～7Pのイメージ図をたたき台にしていただき、発信する順番を入れ方ほうが利用しやすくなるとか、何か足りない項目があるとか、などの意見をいただき、より良いものにするために精査していきたいと思っています。

それでは、自由に発言をお願いできますでしょうか。

伊熊 氏：登山者への情報提供のお願いをしているが、フィードバックされたものが前のほうに来ているほうが最新情報に近くなる。ここにいる人達は、コースタイムよりはマナー・ルールをきちんと知って入ってきて欲しいと思っている人のほうが多いと思いました。

今のところはHPだけに行く予定なのか、それともアプリ化とかの可能性もあるのでしょうか？

事務局 日本森林技術協会(高橋)：本年度事業では、HPを主体に考えてます。検討したものが実施される際には、HPから広げて考えることになると思っています。

古賀 氏：入山届けはコンパスというアプリがあって屋久島警察署とも提携しています。そのフォームから入力すると届けが提出されます。それもHPに入れるといいのではないかと思います。

事務局 日本森林技術協会(高橋)：ありがとうございます。今日いただいた意見を「ポータルサイト（ホームページ等）のイメージ」に反映し、次の作業部会には、もう少し具体的なものを提示させていただいて、本年度の成果として取りまとめていきたいと思っています。

■標識による情報提供の考え方、アウトプットの提示

◇ 資料2

【資料説明】

事務局 日本森林技術協会(高橋)：今日のメインは、これから登山をしようとする人・登山をしている人を対象にして、標識による具体的な①登山情報の内容を提供するには、どういった情報を入れたらいいのかを、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。ただ、標識による情報提供については、過去（平成17年）にも検討がされており、標識施設の整備方針が整理されているが、登山道ごとの利用水準（あるべき利用体験ランク）を踏まえた、標識の設置は進んではいないところが現状です。

ここでは留意すべき点として、標識による1. 情報提供の基本的な考え方、2. 既存標識の課題、3. 登山道の利用水準を踏まえた標識設置の考え方、の3項目を踏まえて、アウトプットを考えていただきたいと思っています。

それから、「4-1. 標識の種類ごとの内容」については、標識の種類ごとにに入れる内容がちがってくるので、ここでは、標識を5種類に分けて、入れ込む情報を考えることにします。

標識の種類は、「主要登山道入口の案内」、「登山道入口の案内」「誘導標識」、「注意喚起」、「資源名の標識」の大きく5つに分けて、標識に入れる情報について考えることとする。表4-1では、標識の種類に提供すべきおおよその内容を整理しています。

「4-1. 標識の種類ごとの内容」で示した、それぞれの標識ごとに提供すべき情報を明確にした上で、どういた場所に設置することで、標識の機能が発揮できるのかを考えながら、広く意見をいただければと思っております。それでは、自由に発言をお願いできますでしょうか。

【意見の記入、貼り付け】

標識の種類	設置場所	内容	備考
登山道入口の案内 (主要の登山道)	<ul style="list-style-type: none"> ・荒川登山口 ・淀川登山口 ・白谷雲水峡入口 ・ヤクスギランド入口 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルート名 ・往復時間、距離、難易度 ・必要な装備 ・電波が通じる場所 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者層の幅が広く、登山経験の浅い利用者が多く利用するため、他の登山道よりは手厚く案内することになる。
登山道入口の案内 (その他の登山道)	<ul style="list-style-type: none"> ・太忠岳入口 ・龍神杉入口 ・楠川入口（県道側から） ・旧栗生歩道入口 ・湯泊歩道入口 ・愛子岳入口 ・永田歩道入口 ・花山歩道入口 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な装備 ・GPSを携帯すること ・難易度、道迷いの程度 ・ロープ場、危険な箇所 ・渡渉点 ・必要な飲料の量 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用体験ランクに応じ、内容は選定して入れる。 ・難易度の高い（原生的な場所を通過する）ルートに応じて、看板は設置しすぎないように、原生性を保つようにする。
誘導標識	<ul style="list-style-type: none"> ・永田岳山頂 ・永田岳山頂前の分岐 ・鹿之沢小屋 ・楠川分れ ・宮之浦岳山頂 ・投石岩屋 ・辻峠 	<ul style="list-style-type: none"> ・次のポイント（場所）までの案内 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語標記併用
		<ul style="list-style-type: none"> ・水場の案内 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語標記併用
	<ul style="list-style-type: none"> ・登山口 	<ul style="list-style-type: none"> ・県道の方向を示す矢印標識 	<ul style="list-style-type: none"> ・登山口から県道（バス停）まで徒歩移動する人が迷う場合もあるため。

標識の種類	設置場所	内容	備考
	・主要登山道からのルート途中に道標設置	・入り口からの「位置」がわかるよう、番号が入った道標にする	・コンパス、地図を携帯していない利用者のいるため、ルート途中の位置を知らせるため。
注意喚起	・渡渉点	・降雨時には渡渉不可	・全ての渡渉点に設置するのではなく、利用体験ランクに応じた設置が望ましい。
	・高塚小屋の後ろ	・立ち入り禁止	・見えるところに看板があると、行きたくなる。通常は見えないところに看板を設置してほしい。
	・愛子岳 ・宮之浦岳山頂～高塚小屋 ・永田歩道	・水場があっても、枯れている場合が多いことを注意喚起	
	・花之江河、小花之江河	・立ち入り禁止	・湿原内の入る人がいるので、気がつきやすい位置に看板設置する
資源名の標識	・ウィルソン株	・標識がいくつもあるので、統一標記にする ・特に外国人も多く見る場所なので、英語標記併用	
	・著名杉（大王杉、夫婦杉、三大杉など）	・名称標記の看板	・著名杉は名称標記の看板は設置する。それ以外の特徴的な巨木等については、基本的にガイドからの説明にする。

■留意点

- ・盗掘や盗採の恐れのある植物の既設案内看板は、順次撤去すべき。
- ・国立公園の歩道計画にない登山道を通過しないと辿り着けない山については、標識等で紹介すべきではない。

【意見交換後の質疑】

吉田 オブザーバー：解説看板については、白谷雲水峡やヤクスギランドのように教育的にやっているところには集中してあってもいいが、後のところは最小限でいいと思う。

土屋 オブザーバー：：今ある看板をどれだけ撤去するか

渡邊 氏：撤去したい看板はある

ジェニファー 氏：看板が統一されるのであれば、ちゃんとした英語標記がほしい。

伊熊 氏：街中の看板は複数言語があるが、山の中では英語まででいいと思う。

中馬 氏：他の山岳部の言語標記はどのようなのですか？

屋久島自然保護官事務所 柘植首席保護官：人が多いところは手厚くなっていますが、山の中までは複数標記にはなっていない。

吉田 オブザーバー：HP 等による情報提供のほうで、アジア系言語対応をすればいいのではないか。屋久島訪問する前に HP を見てくる訳なので、現地の看板にはそんなに沢山はかけないので、日本語と英語でいいのではないのでしょうか。

事務局 日本森林技術協会(高橋)：沢山のご意見や、現状の情報提供をいただきまして、ありがとうございました。ホワイトボードに書き込んだ皆さんからのご意見は、整理してから第 3 回作業部会で提示させていただきます。

次回は最後の作業部会となりまして、1 月 12 日（日）に行います。情報提供の方法ごとに、実際に利用できるよう追加・修正を加え、大枠固めたい予定でいます。次回もどうぞよろしくをお願いします。